



WASEDA

MECHANICAL

ENGINEERING

第40号
APR. 2014

2014年(平成26年)4月1日発行

Newsletter

台灣機友会との初の国際交流

機友会創設100周年記念事業の一
つに、海外の校友との交流を深めること
があります。

今般、総合機械工学科の梅津先生が
講師を引き受けて下さり、台湾機友会
会員と日本の機友会会員との交流事業
の一環として、イブニングサロンを台
湾で開催しました。また、併せて工場
見学、懇親会、観光などを組み合わせ
て実施しました。

台湾側は台湾稻門会の会長も務めた
董炯熙さんが会長で、幹事は昭和40年
卒の鄭文哲さんが務められました。見
事な準備で参加者は感銘を受けま
した。また、この会が開催されるまで、
元早稲田大学台北国際交流センター所
長岡本宏一さんの多大なサポートがあ
りました。

お世話になった方々また、参加して
頂いた日本側会員の方々に心よりお礼
申し上げます。

交流会及びイブニングサロン

開催日：2013年9月30日(月)午後7時～
会 場：アンバサダー ホテル（台北市）

講 師：梅津光生教授

演 題：「医学部のない早稲田の医療
への挑戦：機械工学が先進医療にど
う貢献できるのか」

交流会司会：岡本 宏一氏（元早稲田
大学台北国際交流センター所長）

日本の参加者は14時30分発の中華

航空（CI221便）に乗り羽田より台北
の松山空港へ向かいました。空港では、鄭さん
が出迎えてくれました。我々は旅行社手配のバスで國賓飯店
(アンバサダー ホテル)へ向かいました。松山空港は市内にあり、交通の便
はとてもよいです。

ホテルでは、交流会の準備が進めら
れており、中国側からも多数の関係者
が参加しました。

先ず交流会に出席している双方のメ
ンバーが紹介され、それから台湾機友
会会長で能率投資股份公司董事長 董
炯熙さんの歓迎の挨拶がありました。日台交
流の実現に尽力された、岡本涉
外局長（元台湾交流センター長）の音
頭で乾杯し、会食に入りました。夕食
を済ませて、いよいよ梅津先生の講演
に入りました。お話は、梅津先生が医
療工学へ進むことを決意し、これまで
挑戦してきたことを説明されました。と
ても興味深い講演でした。台湾の参加
者のために、梅津研を卒業した、台湾
の元学生さんが中国語に通訳しました。

工場見学（10月1日）

朝、鄭さんと秘書の中村さんが乗っ
た大型バスがホテルまで迎えに来てくれ
ました。

最初の見学先は「健策」という名前
の会社です。ここは董炯熙さんの率いる
能率集団に属する工場で、LEDの部
品など精密加工を得意とする工場でし



講演中の梅津教授

た。たいへん清潔な工場で、最新の工
作機械をそろえていました。

昼食は、長庚というゴルフ場のクラ
ブハウスで、緑のコースを見ながらの
会食となりました。

午後は、鄭さんの企業グループの会
社で「捷邦」という名前の工場です。
ここでは、アップルのアイフォンの
ケースを切削加工で製造していました。
NCのマシニングセンターをたくさ

CONTENTS

| | |
|----------------------------------|-------|
| 台湾報告 | 1~3 |
| 齋藤孟名誉教授のご逝去を悼んで | 4 |
| 浅川研究室 | 5 |
| 永田研究室 | 6 |
| オリエンテーションの報告 | 7~8 |
| WASA鳥人間紹介 | 9 |
| Waseda Formula Project紹介 | 10 |
| パネルディスカッションに参加して ホームカミングデーの報告 | 11 |
| 機友会活動の更なる活性化に向けて | 12 |
| 第33回早大モビリティシンポジウム 開催報告 | 13 |
| 機友会ゴルフコンペ開催報告 | 14 |
| 広告（皆様へのお知らせ） 事務局からのお知らせ、他 | 14~16 |

ん並べて時間をかけて高級なケースを大量生産していました。手間のかかる製品を大量に注文されても対応できる体制になっています。

工場見学の後、早稲田大学の台湾国際交流センターを訪問しました。テレビ会議のシステムが設置されていて、入学志望者の面接をここでできるようになっていました。

夜は、台湾機友会会員との懇親会で中華料理店での会食でした。

現地見学（10月2日）

朝、鄭さんと中村さんが同じ大型バスで迎えに来てくれました。

本日の訪問先は、鄭さんお奨めの順益原住民博物館です。ここは故宮博物館のすぐ前にあり、ホテルからすぐのところです。日本語のガイドさんがゆっくり全館を案内してくれました。台湾の人口の70%は原住民で、残りが中国人ということですから、台湾を理解するためには、原住民を知らなければなりません。この原住民の人たちが、大変親日なのです。人種的には14ほどの種族に分かれるそうですが、おおむね沖縄の人たちと似ていると思いました。

昼は、有名な丸山飯店でした。案内役の鄭さんは、ここは名所だから来るけど……、という感じでした。

昼食後は、いよいよ最後の訪問地、桃園県にある、桃園神社です。普通の観光客は行かないところですが、鄭さ



桃園神社を訪問

んが是非案内したいということで訪問しました。ここは、旧日本政府が建設した、純日本式神社なのです。日本のものは全て破壊するという政策の中でここは残り、今となっては貴重な文化財です。実は鄭さんの育ったところが桃園神社の付近で、その後、彼は神社の保存運動を行って、現在の状態があるのだそうです。保存のご努力に感謝致します。この日はホテルへ戻った後は自由行動。皆で、地下鉄に乗って士林夜市の見学に行きました。地下鉄では、我々老人にすぐ席を譲ってくれること、優先席が車両の真ん中にあるこ

とに驚きました。

帰国（10月3日）

この日は松山空港9時発CI220便で帰国です。また、旅行社手配のバスに乗り空港へ。忙しい中、鄭さんが空港まで見送りに来てくれました。また、全行程に付き合っていただき、鄭さんと秘書の中村良子さんに感謝、感謝です。ちなみに、中村良子さんは、お父様は日本人ですが台湾生まれ台湾育ちで、全くの台湾の方だそうです。

帰国後、鄭さんより今回の行事のことを掲載した台湾の早稲田大学校友会の雑誌を送ってくれました。

日台の機友会の交流という大事業が行われたことをご報告し、再度関係者の方々に心よりお礼申し上げます。

（事務局 萩須吉洋）



イブサロ会場で記念撮影

『機友会の日台交流』

早稲田大学総長室 涉外局長 岡本宏一



2013年9月30日「機友会イブニングサロンIN台湾」が開催されました。当 日は梅津光生教授の講話に日台の参加者が熱心に耳を傾け、台湾の病院関係者からも興味深い質問が出されました。そして翌日にはIT関連の加工工場を見学しました。

思い返しますと私が早稲田大学台北事務所に赴任中の2011年、石岡貞雄

相談役が台北にお出でになり、機械工学科の卒業生である董炯熙さん（台湾校友会会长）、鄭文哲さん（同総幹事）との面会をとりもつたことが縁の始まりでした。その後、台湾機友会の設立、機友会創立100周年記念式典への台湾機友会からの出席などのお手伝いを経て、先のイブニングサロンの開催と工場見学の実施に至りました。

当初は台湾行きのプランがなかなかまとまりませんでしたが、実施してみると、同じ機械工学科の出身者ですからあっという間に気心が知れ、台湾の加工・生産現場の現状に驚きと興味深い視線が寄せられたと感じました。そして日台の卒業生どうしの親睦が深まることは言うまでもありません。

私は2013年6月に帰任しましたが、理工キャンパスでの5年、台湾での5年の勤務経験をフル活用し、機友会の日台交流が更に発展し、大学への貢献に繋がるようお手伝いを続けてまいりたいと思います。

台湾を通じて観た日本

昭和45年卒 タマチ工業株式会社
代表取締役
太田 邦博



30年来の友人、台湾機友会の鄭文哲先輩からお誘いを頂きました。旅は同行諸先輩方の先駆者としてのご経験や不思議なご縁に驚かされる所から始まりました。

イブニングサロンでは梅津教授の最端研究成果を学びましたが、また偶然にも梅津教授には自社の医工連携の

ディバイス耐久テストでご指導を頂いております。次に董台灣機友会会长が率いる多くの会社の中の二社で工場を見学し、ダイナミックグローバルビジネスを肌で感じる事が出来ました。ここ2年の間に、タイ、ベトナム、上海、カンボジア、フランス、アメリカ、そして台湾2回と渡航し、東南アジアで

は多くの企業や政府高官と接する機会も有りました。他国と比較し台湾は、親日のタイとも異なった形で日本の技術と相互信頼を土台とし、強かに中国を利用してグローバル展開に成功した国だと理解しました。一方アメリカでは、エネルギーや医療での新技術ビジネスが脚光を浴び、膨大な資本が投下され益々国力を増しています。新技術開発、技術提携、技術移転、新規工場設立などの動きの中で、日本が国力を増すために本当に選択すべき軸足は何か、未来を賭して問われています。

機友会台湾イブサロ報告書

昭和45年卒 今田 謙



卒業してから43年間、西早稲田のキャンパスを訪ねたことは一度しかなく、機友会ともニュースレターのみのご縁でした。東アジア、東南アジアの各国には視察・商談等でよく行っておりましたが、台湾だけは一度も機会がありませんでした。台湾イブサロのご案内をいただき、良いタイミングと思い、すぐに参加を決めました。妻に

は、知らない方々とよく一緒に海外旅行が出来ますねと言われましたが、出発当日羽田空港において先輩諸兄の皆様方に初めてお目にかかり、温かく接していただき安心いたしました。台湾機友会の方々の熱烈な歓迎と、梅津先生のご講演、台北早稲田大学事務所の活動等をお聞きし、改めて早稲田はいいなと思いました。早稲田に留学され

ていた台湾出身の多数の先輩方が実業界で活躍されており、また現在も台湾の多くの若者が早稲田を目指していることには本当に驚かされました。

産学交流につきましては、帰国後一週間目に世紀貿易股份有限公司 董事長と鄭文哲氏が来日し、弊社のメッキ工場を見学され、これから前向きに技術交流を進めることになりました。これも今回の機友会の企画の成果であり、話がスムーズに進みましたこと、関係者の皆様に紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

日本・台湾機友会の交流会に参加して

昭和40年卒 山本 博資



1. 交流会が成功裡に運営された要因は以下の3点と考えます。①台湾側の纏めを、台湾機友会の董炯熙董事長及び鄭文哲董事長を中心となり推進され、実業界での活躍に加えて、お二人とも、早稲田大学台湾校友会の会長・幹事長の要職にあられ、受け入れ側に最適な人がおられた。②梅津先生による「機械工学から見た先進医療への挑戦」の講演を通して、最先端の技術を紹介し、これに関して質疑応答などで話題を共有できた。③訪問先企業2社（健策社、捷邦社）は、それぞれ独自の製品を持ち、技術・管理レ

ベルが優れていた。経営者の姿勢も明確で、好印象を与えた。

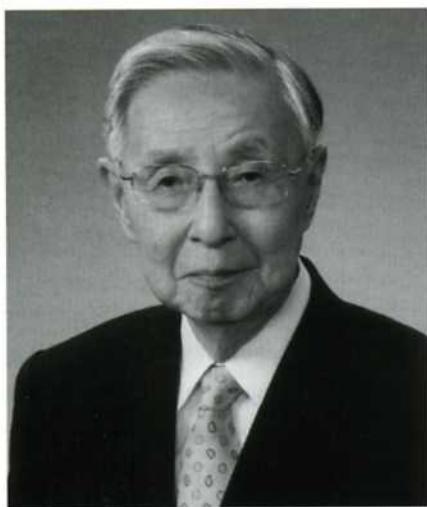
2. これからも交流会を継続するに当っては、上記の3点を踏まえ、以下のことを提案します。①窓口は、引続き董董事長及び鄭董事長にお願いすると共に、早稲田大学台北国際交流事務所とも連絡を密にして、訪問先企業の選定、交流会への若い世代の参画などの支援をお願いする。②今回、梅津教授が手本を示されたように、基調講演として、当方から機械工学の最先端技術を紹介し、交流会の流れを作る。③参加者には、自営業の会員の増加(今

回は数人参加されており僥倖)、現役の卒業生の参加も望まれる。

3. 交流会の自由時間に、私は個人的に、台湾に尽くした日本人の業績の跡を訪ね、日本と台湾との長いつき合いと固い絆を再認識した。それは土木技術者・八田與一が設計し台南の地・烏山頭に築いた巨大な灌漑用のダムと広大な灌漑水路。これにより、南部の嘉南平野は台湾最大の穀倉地帯になり、毎年、土地の人は八田夫婦を顕彰し現在に至っている。同行者は同期の真下氏。JR東海の全面的な支援で運行されている台湾新幹線で行ったが、乗車地は快適、サービスは満点。ラッキーなことに在来線とともに65歳以上の運賃は半額で、楽しみも倍増しました。

齊藤 孟名誉教授のご逝去を悼んで

総合機械工学科教授 大聖 泰弘



齊藤 孟先生には、去る1月2日、肺炎のため、享年90歳にて逝去されました。入院中は過剰な治療を拒まれ、苦しまれるご様子もなく安らかに旅立たれたと奥様から伺いました。先生をご存じの皆様とともに、改めて先生のご冥福をお祈りしたいと存じます。

この度、本誌の編集者からのご依頼により、直接薰陶を受けた卒業生として、また週に一度は研究室にお見えになり、親しく接する機会に恵まれた者として、生前の先生を偲んで拙文を寄せさせて頂きました。

齊藤先生は、大正12年に東京は根津でお生まれになり、わが都の西北、早稲田大学高等学院、理工学部機械工学科を卒業されました。さらに大学院に進まれ、内燃機関研究室を開設された故渡部寅次郎先生の後継者として、教育と研究に従事され、専任講師、助教授を経て、昭和38年から教授を務められ、今からちょうど20年前の平成5年にご定年をお迎えになりました。

その間、教育面では、工業熱力学や内燃機関を講じられ、壇上の講義姿を思い出される方も多いことと思います。また研究面では、各種エンジンの燃焼はもとより、昭和38年代後半からは、大気汚染の主要因である自動車の排出ガス

問題に対して、わが国で最も早く取り組まれ、その排出特性の解明と対策技術や多様な燃料の有効利用の分野で常に学会をリードして来られました。これらの分野で直接ご指導を受けた学生は約7百人に及び、卒業された方々は、自動車業界はもとより、重工業や環境・エネルギー産業の第一線で活躍し、環境技術立国の一翼を担って来られました。

また、国や地方自治体の環境行政に直接携わり、特に自動車の排出ガス規制や燃費基準の策定に貢献されました。そのご功績により、当時の運輸大臣による交通文化賞や勲三等旭日中綬章を受賞され、また平成21年に日本自動車殿堂入りを果たされました。またこの度、内閣総理大臣より正五位に叙せられました。

さて、身近に接する一人として、思い付くままに先生のお人柄を記したいと思います。

- ・3回も大病されながら、奇跡的に恢復された先生でした。
- ・早寝早起きし規則正しい生活をされ、遅刻せず、原稿は必ず締め切り前に提出される先生でした。
- ・講義や演習を休まることは滅多にない先生でした。
- ・研究指導では、学生の発想を尊重して下さる先生でした。
- ・常に冷静沈着に将来を見据え、決して激昂することのない先生でした。
- ・人の悪口を決して言われず、曲がったことが大嫌いな先生でした。
- ・人からものを頼まれると断れず、親身になって相談に載って下さる先生でした。
- ・よく俳句を樂しまれる先生でした。還暦の際、庭に新たに植えられた木々を眺めて詠まれた句が思い出されます。

「年ごとに賑わう庭や春を待つ」

・飾り気のない端正な名文を書かれ、いつも丁重な礼状を忘れない先生でした。

・ご家庭では、いつも若々しくチャーミングな奥様を大切にされる先生でした。

・演劇や映画、歌舞伎、絵画の鑑賞、大相撲観戦、さらには旅行がお好きで、奥様とよく一緒にされる先生でした。

・研究に対する好奇心は旺盛で、名誉会員としてつい最近まで学会や懇親会に出ておられた先生でした。

・無類の読書家の先生でした。勧められてお預かりしている何冊かの本をお返しする機会を逸したことを申し訳なく思っております。

・夏は冷酒、冬は熱燗がお好きで、ウィスキーやワインもいける先生でした。酔うほどに愉快になられ、私の下手な駄洒落にも笑って下さる先生でした。

・そんな時でも、「都の西北」と「紺碧の空」以外は歌われない先生でした。

そして突然、不帰の客となられた今、先生の幾多のご業績や飾らないお人柄、さらには、私ども後輩をいつも励まされ、折に触れて人生の道標を示して下さったことを顧み、改めて尊敬と感謝の念を禁じえません。

あと4年でわが内燃機関研究室は百周年を迎えるところでした。今となつては、先生とともにそれをお祝いすることが出来ず、誠に残念でなりません。これからは、同僚の草鹿仁教授、紙屋雄史教授とともに、先生が目指して来られたエンジンからモビリティへと研究をさらに大きく発展させるべく努めたいと思っております。

終わりに、先生には生前のお疲れをゆっくり癒され、ご遺族の皆様ならびに我々後輩を末永くお見守り下さいますようお願い申し上げて、筆を擱くことと致します。

学生から見た 浅川研究室

浅川研究室 修士2年 鶴見一樹

浅川基男研究室は2014年3月をもってその歴史の幕を閉じます。1996年の開室以来18年間、170名の卒業生を輩出します。私は幸運にも最後の年に学生長を務め、先生と共に研究室をあとにします。ここでは学生から見た研究室の様子を記します。

浅川研究室は金属材料の加工とその特性向上が研究主題であり、基礎研究3割、その他の7割が企業との共同研究であります。例えば数十 μm までの極細線の伸線・矯正、高張力鋼板のプレス成形、ピストンリングや眼鏡フレームの曲げ加工、航空機材料接合付近における疲労強度解析などあります。「若いときは先端技術より技術の深化が大切」との先生の指導方針に基づいています。所属する学生、また卒業生に研究室を選んだ理由を問うと、「先生の人柄に心惹かれてと答える学生が8割以上を占めます。皆研究室配属前の先生の金属材料や加工方法の講義で、余談の中に「社会での立居振舞い方、海外留学のすすめ等があり、この先生の下であれば生きる力が身に付くと信じて研究室の門戸を叩くのであ

ります。

まず教わったのは、先生・先輩との関わり方です。当たり前ですが、

朝来る時、帰る時には皆に挨拶することから始まります。この積み重ねが良好な関係を築き、集団の生活が居心地の良いものとなります。研究に対する取り組み方だけではなく、生きる力も叩き込まれるのであります。学部3年春に配属が決まり、最初の夏休みには夏期実験が始まります。初めての自主研究は難しく、先輩方も自分達が夏期実験での厳しい環境で成長した体験をしているため、新入生にも高いハードルを設けます。人生で初めて「何のために、どのように、何をするかを自力で考えた瞬間でした。座学で習った機械材料・材料力学が「実際にどう役に立つかを知り感動をしたのも記憶しております。また先生から常に意識させられたのは「自分の研究は社会にどう貢献できるのか?」です。苦労して得られた実験結果だけを意識していた私は研究報告会の中で「何のために研究

愚直に精一杯

浅川 基男

浅川基男教授：愚直がキーワード

しているのか?」の質問に、恥ずかしながら言葉を詰まらせました。実際にその3年後就職面接でも企業から問われたのは同じ質問であり、先生の教えに感謝しています。

大学院に進み修士になると先生は企業との研究討論、国内・国外の学会発表の場を多く設け、社会人と接する経験を積ませてくれました。相手が専門家であろうと積極的に質問し、自分の考えを伝えなければ会議に参加している意味をなしません。浅川研究室の学生は学会でも積極的に討議し質問する様子がみられ、先生の教えが身についてきたと実感します。

先生より叱られたことは、身に染みて覚えています。研究室から卒立った約150名の卒業生も、社会で先生の叱咤激励を思い出しているはずです。「エンジニアは抜け目のなさ、賢さよりも、愚直に生きるべきと先生は口酸っぽく述べられます。今の自分は愚直であるか、時々振り返って考えます。

4年前、無知で無能であった私が何とか社会に出られるような状態になったのは他の誰でもなく先生のおかげです。先生も永い間勤めた早稲田大学の理工学部院をこの3月31日で退職となり、3月1日(土)1時30分より57号館202教室において、最終講義が行われました。

最後に心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。



2013年7月 最後の研究室メンバー。

筆者は前列右から3人目（先生：あれほど立ち居振る舞いを教えたのに…）

学生から見た 永田研究室

永田研究室 修士1年 宮澤雄太

1.はじめに

学生からみた研究室紹介ということとで、環境・エネルギー研究科・総合機械工学科、永田・小野田研究室の紹介をさせていただきます。私たちは、教授の永田勝也先生と准教授の小野田弘士先生の指導の下で、日々研究を行っています。私たちの研究室は58号館の2階に位置しており、修士2年生から学部3年生まで各10人程約40人の学生が所属しており非常に賑やかな研究室です。

研究室の標語として『大学を飛び出して、社会を、世界を変えよう』を掲げています。機械系の研究と言うと、研究室内で実験をひたすら繰り返しを行い結論を導き出すというイメージがあるかと思います。それだけでなく、どのように社会に生かしていくかという視点まで含めて考えるのが私たちの研究スタンスになっています。社会の中で生かすことを目標にしている関係上、企業や自治体の方など社会人と関わる機会が非常に多い研究室です。社会との接点を持って研究に取組めるため、非常に有意義な生活を送ることができます。

更に次に示すキーワードのような姿勢で、私たちは大学を飛び出し研究を進めています。

①『共創』

関係者にとってWIN-WINとなり得る知恵を出すのを技術者の役割としています。

②『現場・現実・現物主義』

WIN-WINの答えも、現場・現実・現物のなかにあります。解析を行い、本質を見極めたうえで、ほかにも応用が効くように体系化をします。

③『社会のための技術・手法の開発』

現場から得られたアイデアは現場に返し、社会で使ってもらう、こうした姿勢

で関係者とともに社会実験や実証研究、実践に積極的に取り組んでいきます。



小野田弘士准教授

2.研究内容

研究テーマは、ライフサイクルデザインプロジェクト、ユニバーサルモビリティプロジェクト、サステナビリティテクノロジープロジェクトの主に3種類の分野に大別できます。修士2年生から学部4年生まで2人班もしくは1人班で各1テーマを担当し研究を行っています。ここでは研究テーマをいくつか紹介します。

環境・経済性の両面で最適な回収・処理体系「BAS (Best Available System)」の提案、ソフト開発を行う『TLCA・BAS班』、ライフスタイルの定量的評価手法LSA (Life Style Assessment) の開発・高度化を目標とする『LSA・企業評価班』、リサイクル・リユースを中心に希少資源の問題も含め、各種製品の易解体性を探る『E2-PA・3R班』、エコドライブの実践やリユース部品の活用を促進し、エコユーザーの育成を目指す『成長

コンセプト班』、地産地活型の小型モビリティ (Ultra Lightweight Vehicle) を開発する『MP-ULV班』、需給のマッチングを考慮した最適なエネルギーシステムの検討をする『民生EMS班』、事故・トラブル・ヒヤリハット事例DATABASEを構築し、施設の設計や操業、情報公開に活用する『安全・安心班』、豊島における「共創」理念のもと、技術者および技術の役割を考え、実践する『豊島共創班』などがあります。

3.研究室生活について

研究室生活として年5回の中間発表があり、厳しくも優しい永田先生・小野田先生指導のもと研究に励んでいます。学生中心で研究を進める必要があるため、主体性が求められます。

また研究だけでなく、毎年理工スポーツ大会への参加や軽井沢セミナーハウスをお借りしてゼミ合宿を行うなどイベントも多く、学年分け隔てなく仲良く過ごしています。

これから研究室配属を迎える学部生の方で、もし永田・小野田研究室に興味をお持ちになった方がいらっしゃいましたら是非お気軽にお越し下さい。



オリエンテーションの報告

基幹理工学部 新入生オリエンテーション 実施報告

基幹理工学部 教務主任 機械科学・航空学科 太田 有

2013年4月20日（土）、毎年恒例の基幹理工学部新入生オリエンテーションが、63号館2階の大教室と1階のレストラン「馬車道」を使って開催されました。入学時に学科に所属しない基幹理工学部の新入生にとって、学部の仕組みや学科進級振り分け制度、副専攻制度などの説明を受けると共に、先生方や助手、助教、大学院の先輩方と身近に接することができる初めての機会になったことと思います。機友会からは本年もこの新入生オリエンテーションに対し、相当額の補助を頂戴しており、ここではその御礼も兼ねて簡単な実施報告をいたします。

基幹理工学部は一括入試制度を採用しており、新入生は学科に所属することなく全員が1年間の共通教育を受けます。その後、2年進級時に基幹理工学部に所属する6学科（数学科、応用数理学科、情報理工学科、機械科学・航空学科、電子光システム学科、表現工学科）から自らの希望によって進学先を決定する学科進級振り分けを行っ



新入生オリエンテーション

ています。今回の新入生オリエンテーションでは、この学科進級振り分け制度や副専攻制度の説明と、簡単な懇親会が開催され、新入生が熱心に説明を聞き、先生方と対話する姿が見受けられました。特に、自分の専門学科に加えて他学科の科目を聴講できる副専攻制度は、2013年にスタートして39名が履修を始めましたが、新入生の関心も非常に高く、多くの質問が寄せられました。

基幹理工学部の一括入試、1年次共通教育、学科進級振り分け制度の導入という教育システムは、学部創設7年目を迎えて完全に定着した感があるが、2014年春からは一括入試制度を発展的に解消して、3つの学系別に新入生を募集する学系別入試と、一般入試科目の見直しが実施されました。これにより受験生に対して更に広く門戸を開放すると共に、将来の学科選択がより本人の希望に沿うように改善される効果が期待されています。また、本庄にキャンパスがあった国際情報通信研究科（GITS）の学生募集を停止し、基幹理工学部内に新学科「情報通信学科」を設立することで、近年発達が著しい情報・通信分野の教育・研究拠点がこの西早稲田キャンパス内に形成されることになります。また、秋学期に学生を募集し、4年間一貫



懇親会風景

して英語のみで教育を行う「国際コース」の入学定員も大幅に増大し、学部のグローバル化が加速しています。

このように入試、教育システムが大きく変化した基幹理工学部にあって、機械科学・航空学科だけは未だに旧態依然とした古い体制のままで、教育カリキュラムの見直しや国際コースへの参加もまだ検討中で、遅々として進んでいない状況です。18歳人口の減少に伴い各学科が学生定員や教育カリキュラムのスリム化を積極的に実施していく中、従来の440人態勢の古い教育システムでは今の時代に追従できる筈はありません。新入生の志望学科動向は本当に正直なもので、教育改革を積極的に実施した学科に人が集中しているようです。機械科学・航空学科が基幹理工学部として期待されるように、早急に手を打つ必要があると思います。是非、機友会の諸先輩方からも将来の機械科学・航空学科の発展に向けて、忌憚のないご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い致いたく存じます。

2013年度 総合機械工学科 1年生オリエンテーション報告

総合機械工学科 助手 中島康貴

総合機械工学科1年生オリエンテーションは、6月15日（土）、16日（日）の日程で軽井沢セミナーハウスにて実施されました。5台のバスが、朝9時30分に西早稲田キャンパスを出発し、軽井沢セミナーハウスへ向かいました。

今年度より新設および改装されたセミナーハウスは、近代的で非常に綺麗な建物となっており、非常に快適で、大変素晴らしいです。

セミナーハウス到着後は昼食をとり、各バス対抗のスポーツ大会を開催しま



ソフトボール（試合の風景）

した。サッカー、バスケットボール、ソフトボール、テニスの4種目から各自がやりたいスポーツを選び、豪華賞品と勝利の喜びをかけてお互いに汗を流しました。またそこには教員・助手およびTAも参加し、普段の講義では体験することができない交流が行われました。

また、夕食後、4部屋に分かれて本



バスケットボール（試合の風景）



サッカー（試合の風景）



懇親会での学生同士の全体集合写真

学科教員による、毎年恒例のオリエンテーションが夜に行われました。各教員・助手から20分程度のプレゼンテーションが行われ、最先端の研究状況を踏まえた本学科で学ぶ学問の意義、研究との関連性について、紹介がありました。またエンジニアや研究者として社会に出るための心構えや人生観などについても言及され、学生は真剣な表情で食い入るように話を聞いていました。その後、オリエンテーションに引き続き懇親会も行われ、そこでは教員・助手およびTAと1年生らが一緒になり、お菓子やジュースを囲み、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。学生間の交流が深まっただけでなく、オリエンテーションの内容を踏まえた教員との質疑応答も行われ、時間は



懇親会での山川先生と学生、草鹿先生と学生との交流の風景

あっという間に過ぎました。

翌日は、浅間山をバックに集合写真を撮った後、軽井沢駅近傍のアウトレットモールにて昼食やショッピングなどの自由時間を過ごしました。その後バスは新宿駅西口に向かい、16時30分頃に解散となりました。

今年は学籍番号通りではなく、ランダムにして、乗車するバスの号車や宿泊部屋を準備しました。その結果、講義や実験等では普段あまり話すことのないメンバー同士で交流することができて非常に楽しかったという感想を多くの1年生から聞くことができ、今回のオリエンテーションの目的が果たせたと感じています。ご協力・ご支援頂きました先生方、助手、TAの方々と機友会の皆様に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。



テニス（試合の風景）

2013年度機械科学・航空学科 2年生オリエンテーション報告

機械科学・航空学科 助手 大野慶祐

6月1日（土）、2日（日）に、機械科学・航空学科2年生オリエンテーションを軽井沢セミナーハウスにて実施しました。基幹理工学部では、2年生から各学科に分かれるため、このオリエンテーションが機械科学・航空学科の学生として初めての大きなイベントとなります。当日の参加人数は、学生が123名、TAが10名、教員・助教・助手が15名でした。

1日（土）朝に西早稲田キャンパスを出発し、12時には無事に軽井沢セミナーハウスへ到着することができ、昼食の後にスポーツ大会を行いました。スポーツ大会では全員参加の綱引き、グループに分かれてのサッカー、ソフトボール、バスケットボール、テニス、卓球を行いました。

夕食と入浴の後、一堂に会しオリエ

ンテーションを行いました。ここでは、川田先生、浅川先生、佐藤先生、宮川先生から機械工学科の歴史や研究活動に関してなど、様々お話を頂戴することができ、学生も熱心に耳を傾けていました。その後、スポーツ大会の表彰と、お菓子とジュースを囲んでの懇親会となりました。懇親会では先生方の周りに学生が集まり、様々な話を聞いていました。

2日目（日）は、11時頃にセミナーハウスを出発し、旧軽井沢の散策をしたのちに帰京の途となりました。

本年度のオリエンテーションは、学生TAの活躍もあり、全日程を通じて順調に行うことができました。東京に着く頃には、心地良い疲れを感じおりましたが、大きな怪我や病人も出ることもなく無事に終えることができました。学生に

とっても、お互いの親睦を深め、先生方の貴重なお話を聞けるよい機会となつたと思います。実施に協力いただいた全ての方々や、補助金を支出いただいた基幹理工学部と機友会の皆様にこの場を借りて厚くお礼申しあげます。



浅川先生による講演



懇親会での学生同士の全体集合写真

サークル紹介（機友会で支援しております）

WASA鳥人間紹介

基幹理工学部 機械科学・航空学科3年 鈴木研究室 宇多田悟志

早稲田大学宇宙航空研究会(WASA)鳥人間プロジェクトはWASAで運営しているプロジェクトの一つで、早稲田大学理工学部と日本女子大学の学生で人力飛行機の製作と運用を行うチームです。8月から翌年7月までを1サイクルとして、1年間で人力飛行機の設計、製作、試験飛行、調整を行い、最終的に読売テレビ主催の鳥人間コンテストに出場して優勝を目指すというのが活動の大まかな計画です。

2013年度プロジェクトは昨年の8月に動き出しました。プロジェクトの目標を、鳥人間コンテストタイムトライアル部門(TT部門)に出場し、チーム初の旋回を成功させてゴールする、昨年の優勝タイム2分08秒50に対して2分00秒を目標タイムの目安とする、と設定しました。TT部門とは高さ10mのプラットホームから発進した機体が500m先のターンマークを旋回して、スタートラインに戻ってくる計1000mの走破タイムを競うものです。WASAは2008年からTT部門に参加していますが旋回を成功させたことがなく、記録を残したことありません。

森田直人(機械科学・航空学科3年)が設計主任としてMATLAB互換の数値解析ソフトウェアGNU Octaveを用いた空力・構造設計、運動解析、

プロペラ設計解析を行う汎用設計プログラムを作成。設定した目標を達成するために、試験飛行回数を多くしてパイロットに経験を積ませる、旋回時の負担を減らすために低出力化を図る、の二点を設計コンセプトとして自作プログラムによって設計を煮詰め、11月に全機設計を完了させました。

11月からは本格的に2013年度機体の製作が始まり、2013年3月15日にプロペラを除いた機体の製作が完了し、前年度のプロペラを用いた試験飛行が出来る状態になりました。

試験飛行は3月下旬から7月の上旬まで計10回行いました。天候不良で満足に試験飛行が行えなかったり、強風で主翼に異常が起こってしまったり、滑走路脇の草地で機体の車輪が破損したりとトラブル続きで計画通りに進めることはできませんでした。それでもなんとか「鳥人間コンテストで安全な飛行ができる」という最低限の調整を終わらせて本番に望みました。

鳥人間コンテスト当日、早朝に大雨が降ったもののフライトの頃にはほぼ無風で理想的なコンディションでした。プラットホームから飛び出した機体は



フライト中の様子

落下の速度を利用して加速し、高度を上げるとまっすぐに旋回点まで向かいました。少し大回りに旋回を成功させ、高度を失いつつもなんとかゴールラインを超えることができ、WASA史上初の旋回と完走を達成することができました。結果は2分08秒27で昨年度の優勝記録を上回ることが出来ましたが、機体保持者がプラットホームから落下したこと、機体の着水地点が湖岸に近く危険飛行と認定されたこと、の二点がルールに違反しているとして失格という結果に悔しさを感じていますが、フライト自体はWASAの進歩を証明するのに十分なものであったと思います。

この成果は試験飛行で失敗を重ねつつも諦めずに挑戦し続けた森田やパイロットの金子雄司(創造理工学部社会環境工学科3年)、そしてそれを支えたチームの頑張りがあったからこそ得られたものです。また、顧問を務めてくださった太田有先生、活動できる環境を整えてくださった理工技術センター職員の方々、機友会の資金援助、WASA OB・OGの協力、一つでも欠けたら達成できないことでした。この場を借りて私達の活動に関わってくださった全ての方に御礼申し上げます。そして、機友会の皆様には今後もご支援をお願いできればと思います。



鳥人間コンテストフライト直前の集合写真

Waseda Formula Project (WFP) 紹介

<http://waseda-fp.tumblr.com>

2018年大会での優勝を目指しています！

早稲田大学 創造理工学部 総合機械工学科 山川研究室4年 佐々木大堯

自ら構想・設計・製作したレーシングカーで全日本学生フォーミュラ大会に参戦！

全日本学生フォーミュラ大会の趣旨は「主役である学生が自ら構想・設計・製作した車両により、企画・マーケティング・コストを含めた『モノづくりの総合力』を競い、産学官民で支援して、自動車技術ならびに産業の発展・振興に資する人材を育成する」ことです。

1981年にアメリカで、2003年に日本でもスタートしました。東大、京大、阪大、慶應大など約80校が参加、ドイツ、中国、タイ、インド、インドネシアなど海外からも約10校が参加し、毎年9月に5日間にわたり競技を行う大規模かつグローバルな大会です。

(全日本学生フォーミュラ大会

<http://www.jsae.or.jp/formula/jp>



授業で学べないことを学び、

授業で学んだことを実践します！

『モノづくりの総合力』を養うことがチーム第一の目的です。授業で学んだ材力・熱力・流力を実際の設計に活用すると共に、実車の製作・プロジェクト管理・プレゼンテーション能力など、モノづくりの本質、そのプロセスを学び、モノづくりの厳しさ、おもしろさ、喜びを体得し、その経験を将来実社会で活かします。

**Waseda Formula Project (WFP)
はこんなチームです！**

2009年に自動車部から独立、山川研究室（創造理工学部総合機械工学科）を中心に学生フォーミュラに特化したプロジェクトとして設立されました。

現在は修士1年2名、学部4年3名、3年6名、2年10名の計21名、機械科の

学生を中心に、生物系・経営系・法学部・政治経済学部と文理の枠を超えて、授業の合間に部品の設計や製作等の活動を行っています。皆大会に向けてフルパワーで活動に取り組んでおり、週1回のミーティング以外でもメンバーが集まればより良いクルマを作るため、またチームが強くなるための議論を戦わせます。

これまでの4年間で「モノづくりの難しさ」や「日程管理の重要性」について認識すると共に、自らが手がけたマシンが「実際に走る感動」を通して、「モノづくりの楽しさ」を学んできました。ここで学んだ技術や情報を伝承していくことにより、優勝を目指してチーム力を向上させていきます。

活動は、以下の三つで実施します。

○車両製作

- ・3次元CADソフトウェアを用いた設計
- ・フライス盤、旋盤、溶接機などを用いた車両の製作

○走行試験・練習

- ・車両の問題点の洗い出し、セッティングのための走行試験
- ・レーシングカートやスポーツカーなどによる運転技術向上のための走行練習

○マネジメント

- ・日程管理
- ・スポンサーの獲得
- ・企画書・活動報告書の作成



機友会・OB諸氏にもご支援お願いします！

エンジン・ペアリング・ショックアブソーバ等の部品やCADソフトの提供、サスペンション設計等の技術支援を頂いています。しかし、各種パーツ、車両設計・セッティング・製造に関わるノウハウ、活動資金と、まだまだ足りないものが沢山あります。早稲田の優勝を目指すWFPに、企業・先輩諸氏のさらなる支援をお願いします。

（詳細は、同封「WFPご支援のお願い」を参照下さい）



プロジェクトメンバー募集中！

クルマ、バイク、機械、モータースポーツ、モノづくり、プロジェクト運営…どれか一つでも興味がある、または本気で何かに取り組みたい新入生や在学生をお待ちしています。活動に興味のある学生は下記へ連絡下さい。

WFPマネジメント担当：菱沼 優花
(チームメールアドレス
waseda.fp@gmail.com)

パネルディスカッションに参加して

機友会理事 佐山正巳 昭和49年卒（中根研）

パネルディスカッションに参加して 機械科学・航空学科、総合機械工学科、機友会合同主催のパネルディスカッションが、2013年12月6日に理工学部57号館202教室で開催されました。当日は、就職や進学を間近に控えた学部生や大学院生を中心に、在校生やOBの機友会会員も加わり、400名近くに迫る参加者で大盛況でした。

冒頭、矢吹機友会会长から、就職活動に際して自分として何をしたいのか価値観を確認し、多岐にわたる日本の製造業を支えて行って欲しいと強調されました。

基調講演では、いすゞ自動車（株）の月岡取締役副社長（昭和47年齊藤研卒）から、学生時代、そして入社直後から激しい事業環境の変化に遭遇しつつも果敢に挑戦し乗り越えられ、それにより得られた貴重な体験や知見を穏やかな口調でわかり易くお話を戴きました。

ご本人が就活時に当時の恩師である齊藤先生から賜ったご助言「就職には運（うん）があるものです。」の話に触れられ、運とは宝くじを引き当てるような運ではなく、日頃の努力や準備の積み重ねが、運を呼び寄せる強調されました。随分と参考になったことだと思います。

また、パネルディスカッションでは、

今回、スズキ（株）、東京製鐵（株）、（株）日立製作所、新潟原動機（株）、日本ガイシ（株）の5社からパネラーとして計6名の方にご登壇賜り、会社での現在の仕事や、会社を選んだ理由等を紹介して戴くと共に、会場からの質問に対しパネラーが答える形で進められました。会社でどのようなことに挑戦したいか、入社して最初にぶち当たった壁は何だったのか等の質問に加え、早稲田の機械出身者に何が期待されているかにも大きな関心が寄せられました。現場を大切にする姿勢やコミュニケーション能力、更に、在野精

神を忘れず、物おじしないで意見を申す等いろいろと期待が大きいことも今回実感しました。

最後に、学校側から進学・就職説明がなされた後、会場を55号館に移して、懇親会が行われました。皆さん終始なごやかな雰囲気の中、楽しい一時を過ごすことができました。今回、講演やパネラーとして参加してご協力戴きました皆様をはじめ、会の準備、進行に尽力戴きました就職ご担当の学内の諸先生方の皆様に、あらためて感謝申し上げます。



パネラーの皆様

ホームカミングデーの報告

機友会理事 浜野雅夫 昭和44年卒業（小泉研）

ホームカミングデーが2013年10月20日（日）に開催され、機友会も例年通り早稲田大学本部キャンパスの7号館220教室に懇親会場を設け、来校された会員の皆様の出会いの場を用意しました。

午後1時から浅川基男先生の司会のもとに、杉島和三郎元機友会会长による開会の挨拶で始まりました。冒頭、昨年3月に亡くなられた田島清瀬先生への黙祷が行われました。開会の挨拶の後、梅津光生先生より「機械工学から見た先進医療への挑戦」というテーマで講演をして頂きました。人工心臓に関する実験を1974年に東京女子医大で開始して以来、数多くの臨床試験

等を経て実際に多くの人への装着実績を達成するまでの経緯をお話して頂きました。出席者全員が興味深くお聞きすることが出来、大変感銘深い講演となりました。講演の終了後、河合素直前機友会会长の音頭で乾杯し、懇談に入りました。

しばらく懇談した後、機友会よりの近況報告として真下進機友会理事より、先日実施した台湾機友会との交流会（2013年9月30日～10月3日）に関する報告が行われました。交流会においては、梅津光生先生により本日と同様のテーマの講演が行われ、台湾の人達が大変興味深く聞かれていたとのことでした。又、今回の台湾との交流会

を実施した結果、台湾企業と日本企業の交流を今後もっと盛んにすべきであると強く感じたとの報告がありました。

その後、機友会事務局の佐々木洋子さんから平成24年後半からの闘病経過と近況の報告がおこなわれた後、招待年次者の代表として4名の方からもご挨拶を頂き、最後に記念撮影と校歌齊唱が行われて閉会となりました。今回は台風の影響で大雨となったこともあり、約30名と参加者が少なくなりましたが、素晴らしいホームカミングデーをすることができました。なお、今回のホームカミングデーの招待者卒業年度は下記の方々でした。



ホームカミングデー来校の会員一同

〈卒業後50年目〉昭和39年卒業の方
〈卒業後45年目〉昭和44年卒業の方
〈卒業後35年目〉昭和54年卒業の方
〈卒業後25年目〉平成元年卒業の方
〈卒業後15年目〉平成11年卒業の方

次回のホームカミングデーは、2014年10月19日（日）に開催されます。招待者の卒業年度は、昭和40年卒、昭和45年卒、昭和55年卒、平成2年卒、平成12年卒ですが、卒業年度にこだわらず多数ご来校のうえ、機友会の懇親会場へお気軽に立ち寄り下さい。

〈機友会通信〉

機友会活動の更なる活性化に向けて

機友会理事 石 太郎 42年卒（齊藤研）

■機友会とは

機友会は、学生・OB・教員会員が一体となって活動をしている組織です。理工学部機械工学科は、高度成長時代の日本の工業力強化に向けて昭和38年（1963年）入学から400人以上の学生となり急膨張しました。さらに平成19年（2007年）には理工学部が基幹・創造・先進理工学部の3学部に再編成されています。その結果、機械工学科は、機械科学・航空学科（基幹理工学部）と総合機械工学科（創造理工学部）の二学科に再編されそれぞれ150名の規模となりました。これは機械分野の拡大という時代の流れに沿った変化です。

このような変遷の中で機友会活動は継続していますが、大学組織の変化は外部からは理解の難しさがあり、また機友会活動も従来の延長上では時代の流れとのギャップが生じ分かりにくさが残ります。時代の流れに対応した活動の変化が期待されるところであります。機友会自身が時代の流れを捉えて歴史と次世代を見据えて活動を進めなくてはならない時期に差し掛かっています。今後機友会活動のさらなる活性化に向けて最近の理事会の論議から考えてみました。

■最近の理事会の論議から

理事会は、現在矢吹会長を筆頭に、現役の先生や機械科卒業のOB約20名で構成され、約2ヶ月ごとの理事会で活動の方針、企画、イベント等多岐に

渡る内容について毎回活発な論議が行われております。最近の話題は機友会の財政の健全化です。機友会活動は会費で賄われてますが、近年では会費納入が減る傾向にあり活動に影響が出始めております。そこで会費を納入して頂くために、どうしたら良いのか毎回論議が続いています。機友会の活動が外からわかりやすくなり会費納入していただく動機に結びつくこと、機友会組織の更なる強化が必須であるという論議が続いています。

また別の視点では、機友会は実際に年間を通じて、ホームカミングデー、パネルディスカッション、シンポジウム、ペアレンツデー、工場見学、イブニングサロン、ゴルフコンペ、入学式、卒業式等の企画や参加、サークルへの支援活動、総会等様々な活動を行っていますが、多様な活動に対して

機友会として現役の学生への働きかけが弱いのではないか、学生を巻き込む新しい企画の設定が必要ではないかといった論議も出ています。

機友会理事会では、現役の先生と学生に活動をさらに理解していただく場を多くすること、OBに対して活動の目的や効果の更なる発信することが必要であるという認識も強く出ております。機友会活動の目的や効果への理解が得られれば会費納入への協力も進むのではないかといった期待もあります。機友会の活動が現役学生や早稲田大学の人材教育に役立っていることが関係者に広く実感して頂くことが重要です。今後日本では一層高齢化が進む中で機械科OBとのネットワークを保ちながら、次世代の力となる学生教育に機友会の役割が実感できるように活動のさらなる充実・活性化が期待されています。



理事会風景（学生によるフォーミュラプロジェクト報告）

第33回早大モビリティシンポジウム開催報告

早大環境総合研究センター 石 太郎（昭和42年卒）

2013年11月16日（土）10:00より第33回早大モビリティシンポジウムが、早稲田大学理工学部57号館で開催されました。毎年開催されており、今回で33年目となります。早大モビリティ研究会/早稲田大学理工学研究所主催、早稲田大学創造理工学部総合機械工学科/早稲田機友会/次世代自動車リサーチセンター（環境総合研究センター）共催です。

自動車が内燃機関や車両性能はもとより、安全性、快適性、環境・エネルギー、情報通信等の技術革新を遂げながら成長している現状を捉えて、今回も特別講演2件を含む、多岐に渡る視点から10件の講演が行われました。土曜日の早朝から大勢の参加をいただき、最終的には300名を超える参加者で盛況裡に終了しました。どの講演も現在自動車が直面している最先端の技術内容でした。具体的講演タイトルを下記に報告します。



大型泰弘教授の開会の辞

■開会挨拶：大型泰弘（早稲田大学、早大モビリティ研究会代表）

■特別講演（2件）：

- 特別講演1：タイヤの空気抵抗低減技術 野地 彦句 横浜ゴム㈱代表取締役社長
- 特別講演2：都市空間を彩る自動車 蔡野 健 早稲田大学表現工学科

■講演（8件）：

- 講演1：EV/PEV実証実験 高須賀祥隆 (株)本田技術研究所
- 講演2：尿素SCRシステムのNOx低減性能改善 岡崎徹矢（代細谷氏） 日野自動車(株)
- 講演3：超高効率実現に向けたディーゼルエンジンの研究 内田 登・小川 博 (株)新エイシーワークス
- 講演4：モビリティの省エネルギー化と成熟社会に向けた兆し 星 明彦 国土交通省自動車局

（午前の部：司会 草鹿 仁 早稲田大学）

- 講演5：DiAiシステムの開発 吉田 耕平 トヨタ自動車(株)
- 講演6：三菱クリーンディーゼルエンジンの後処理技術開発 金山 訓己 三菱自動車工業(株)
- 講演7：1Motor2ClutchシステムFF-Hybrid技術の紹介 高橋哲哉 ジャトコ(株)
- 講演8：水素REレンジエクステンダーEVの紹介 三戸部 典朗 マツダ(株)

■最近の早大モビリティ研究会の研究紹介 大型泰弘・草鹿 仁・紙屋雄史

（午後の部：司会 紙屋 雄史 早稲田大学）

シンポジウムの後、懇親会が63号館1階カフェテリアで行われ、講演者を交えて懇談や講演に関する論議が熱心に行われました。今回の早大シンポジウムも最先端の多様な自動車技術紹介の紹介で盛り上りました。2014年も11月第3土曜日の予定で開催されますので、近づいたらホームページ等で紹介します。



第33回早大モビリティシンポジウム風景

機友会 ゴルフ コンペ開催報告 秋大会

昭和37年卒 平岡 勝（柴山研）

第31回機友会ゴルフコンペ開催報告

平成25年11月14日（木）晴天無風のゴルフ日和のもと、川崎国際生田緑地ゴルフ場において、アウト7組、イン6組、総勢50名の参加を得て開催されました。ゴルフはお付き合い程度の実力の私は、この好天に助けられて何とか100を切りたいものと勇躍スタートしたまでは良かったのですが、世の中そう甘くはなく随所で大叩きてしまい、上りは結果114というスコアでした。

そのため、プレー後の表彰式では成績順などと頭になかったところ、突然優勝者として名を呼ばれたときは本当に仰天しました。聞けばこれには2つの偶然がありました。1つは、本会ルールにおいて誰でも等しく優勝機会が与えられるようにと設けられたペリア方式による上限のないハンデ計算です。私の場合は、大叩きしたいくつかのホールが隠しホールに合致すると

いう偶然も加わって、ハンデ43.2、ネットスコア70.8となり、2位の成績となつたことです。2つ目は、グロス81、ネット69.0という立派な成績で本来1位となられた芳賀 研二氏（昭44年卒）がたまたま前回コンペの優勝者であられたため、2年内複数優勝なしという本会ルールにより1位が入れ替えとなつたことです。こうして思わぬ優勝を頂いたものの、心境としては、〈優勝もほろ苦残のハンデかな〉でした。

本会では、日頃母校との接点が少ない我々OBには有難いことに、現役の先生から学内外の最新情報を聞きする機会があるのですが、今回は川田 宏之先生（昭55年卒）からお話がありました。その中で、国からの科学研究助成について、今後10年の助成枠を獲得するため、文科省に対し各大学、研究機関がそれぞれ熱心にプレゼンテー



ションを行った結果、東大、京大を含む4つの国立大学がトップでいわば松竹梅の松の評価を受けたのに次いで、早稲田は竹の評価を獲得しましたが、これは私学としてはトップである上、大きな公立研究機関とも並ぶものであったとの事でした。このような母校の高い評価を聞くにつけて、頬もしく嬉しく感じた次第です。

なお、このゴルフコンペは、機友会交流会として実施しており、機友会支援活動の一環としても役立たせております。

広告（皆様へのお知らせ）

この度ニュースレターに広告を掲載することにしました。

これは、ニュースレターの役割の拡大と、広告費が機友会活動の活性化に貢献することが期待されます。今後も広告を掲載したいと思います。会社の紹介および活動を知りたいためにも、積極的なご利用をお願いいたします。

掲載ご希望の方は、事務局まで申し出てください。（TEL:03-3205-9727）

編集委員会

能率集団

総裁 董 煙熙（1965年卒）

取扱業務：光学製品製造、情報アクセス、電子精密部品モジュール設計、不動産開発事業、コンテンツ産業

住所：10595台湾台北市復興北路101号10楼

T E L : +886-02-2716-3736 F A X : +886-02-2718-5001

ホームページ：<http://www.abico.com.tw>

オキノ工業株式会社

代表取締役社長 沖野 晃久（1980年修士修了）

取扱業務：半導体用ピン製作、各種試験装置設計・製作、特殊ロボット設計・製作

住所：〒367-0241 埼玉県児玉郡神川町元原285-8

T E L : 0495-77-2550 F A X : 0495-77-4972

E-mail：info@okino-i.co.jp.net

世紀貿易股份有限公司

董事長 鄭 文哲（1965年卒）

取扱業務：精密工作機械及び周辺装置製造販売

住所：24892台湾新北市新莊市五權一路1號3樓之5

T E L : +886-2-2298-8336 F A X : +886-2-2298-8338

ホームページ：<http://centra.com.tw/>

E-mail：mac@centra.com.tw

株式会社四ツ井工作所

代表取締役社長 四ツ井 泰彦（1979年卒）

取扱業務：精密工作機械輸出入全般

本社：住所 〒652-0803

神戸市兵庫区大開通5丁目2番21号

T E L 078-577-2020

F A X 078-577-5972

四国営業所：

住所 〒762-0025

坂出市川津町2712-1-A106

T E L 0877-85-5148

成翌股份有限公司

董事長 工学博士 蘇 素珍（1995年卒）

取扱業務：台湾・中国砂型鋳造、精密鋳造、機械加工品製造輸出入

住所：10448台湾台北市中山北路2段79號11樓1103室

T E L : +886-2-2551-9502 F A X : +886-2-2551-9535

E-mail：soartek@ms4.hinet.net

サポート費のご協力有難うございました。

2013年9月1日より2014年2月24日の間に81名の方々より、総額514,500円のサポート費のご協力をいただきました。

さらに2013年4月1日より2014年1月25日の間に3名の方から、総額25,000円の公認サークルを指名されたサポート費のご協力をいただきました。昨年の同時期に比べてもかなり増額になっており、誠に有難うございました。特に学生に対し、サークル活動、オリエンテーション支援、また奨学論文賞などをさらに充実させていきたいと考えております。

また、学生・OB・教職員一体となった活動も計画しております。今後とも皆様方の更なるご支援を賜りたくお願ひいたします。

| 卒年 | 氏名 | 卒年 | 氏名 | 卒年 | 氏名 | 卒年 | 氏名 | 卒年 | 氏名 | 卒年 | 氏名 | 卒年 | 氏名 |
|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 昭和15年 | 羽田 勝彦 | 昭和29年 | 金原 淑郎 | 昭和32年 | 堤 泰彦 | 昭和33年 | 秋山 三郎 | 昭和35年 | 古谷 哲男 | 昭和43年 | 鬼澤 秀夫 | 昭和51年 | 松本 賢悟 |
| 昭和16年 | 植松 武司 | 昭和29年 | 仁木 基文 | 昭和32年 | 田中 清一 | 昭和33年 | 近藤 芳夫 | 昭和36年 | 倉石 篤 | 昭和43年 | 原田 芳彦 | 昭和54年 | 坪田 章 |
| 昭和21年 | 吉森 信夫 | 昭和29年 | 深津 晶 | 昭和32年 | 中山 準 | 昭和33年 | 笛 明 | 昭和36年 | 白相 六郎 | 昭和44年 | 恒川 雄三 | 昭和60年 | 三上 尚史 |
| 昭和22年 | 田村 献 | 昭和30年 | 常盤 大麓 | 昭和32年 | 今枝 實 | 昭和33年 | 松尾 光庸 | 昭和36年 | 秦 捷次 | 昭和44年 | 野口 敏 | 平成17年 | 金城 均 |
| 昭和25年 | 平野 俊雄 | 昭和30年 | 覚張 常二 | 昭和32年 | 梶谷 卓也 | 昭和33年 | 馬 光彦 | 昭和37年 | 星 利樹 | 昭和46年 | 入山 正樹 | 元職員 | 佐々木洋子 |
| 昭和25年 | 小沢 秀夫 | 昭和30年 | 鈴木 孝 | 昭和32年 | 進藤 哲朗 | 昭和33年 | 中沢 和之 | 昭和38年 | 大友 鉄雄 | 昭和48年 | 木藤 冬樹 | (敬称 略) | |
| 昭和26年 | 増田 次郎 | 昭和30年 | 梶原 正司 | 昭和32年 | 西野 入一雄 | 昭和34年 | 河内 紀雄 | 昭和38年 | 市岡 篤 | | | | |
| 昭和26年 | 田中 博一 | 昭和30年 | 藤村 宏 | 昭和32年 | 山崎 晴通 | 昭和34年 | 山口 富士夫 | 昭和39年 | 阿川 昌彦 | | | | |
| 昭和27年 | 新井 保文 | 昭和31年 | 高橋 三雄 | 昭和32年 | 江口 昌典 | 昭和34年 | 森 新一郎 | 昭和40年 | 荻須 吉洋 | | | | |
| 昭和27年 | 坂井 徳郎 | 昭和31年 | 井上 義祐 | 昭和32年 | 川又 幹夫 | 昭和34年 | 佐々倉功一 | 昭和40年 | 真下 進 | | | | |
| 昭和27年 | 細井 健司 | 昭和32年 | 石岡 貞雄 | 昭和32年 | 網野 功 | 昭和35年 | 野池 敏三 | 昭和40年 | 古賀 国彦 | | | | |
| 昭和27年 | 赤井 民幸 | 昭和32年 | 福田 尚 | 昭和33年 | 大淵 昭 | 昭和35年 | 川合 雄二 | 昭和41年 | 岡部 公一 | | | | |
| 昭和27年 | 杉島和三郎 | 昭和32年 | 馬渡 昭雄 | 昭和33年 | 櫻井 治男 | 昭和35年 | 大西 正純 | 昭和42年 | 石 太郎 | | | | |
| 昭和28年 | 金井 史郎 | 昭和32年 | 西村 幹夫 | 昭和33年 | 樺山 亨 | 昭和35年 | 平野 良 | 昭和42年 | 胡屋謙二郎 | | | | |

サークル指名サポート費

| 卒年 | 氏名 | 指名サークル |
|-------|-------|-----------------------|
| 昭和33年 | 佐藤 智士 | Waseda Fomura Project |
| 昭和27年 | 杉島和三郎 | Waseda Fomura Project |
| 昭和40年 | 荻須 吉洋 | Waseda Fomura Project |

会員訃報

2013年9月以降に下記の会員の方々の訃報について連絡がありました。

ここに、謹んでご冥福をお祈りいたします。 (敬称略)

2014.1.31現在

| 卒年 | 学歴 | 氏名 | 逝去年月日 | 卒年 | 学歴 | 氏名 | 逝去年月日 | 卒年 | 学歴 | 氏名 | 逝去年月日 | 卒年 | 学歴 | 氏名 | 逝去年月日 |
|-------|-----|--------|-----------|-------|-----|-------|------------|-------|-----|-------|------------|-------|-----|--------|------------|
| 昭和16年 | 旧機械 | 金尾 嘉一 | 2014.1.6 | 昭和23年 | 専機 | 川上 隆弘 | 2012.10.26 | 昭和29年 | 一機械 | 大沢 一朗 | 2011.9.25 | 昭和35年 | 二機械 | 米川 勝美 | 2013.12.21 |
| 昭和18年 | 専機 | 天野 俊宣 | 2013.1.3 | 昭和23年 | 専機 | 川辺 三郎 | 2013.5.17 | 昭和29年 | 二機械 | 深津 晶 | 2013.8.26 | 昭和39年 | 二機械 | 三村 裕 | 2007.2 |
| 昭和19年 | 専機 | 瀬川 長治郎 | 2013.4.2 | 昭和23年 | 専運 | 関根 晃 | | 昭和29年 | 一機械 | 和泉 友晴 | 2012.5 | 昭和31年 | 一機械 | 織茂 芳三 | 2012.11.10 |
| 昭和19年 | 旧機械 | 西野 登志夫 | 2011.5.1 | 昭和24年 | 専機 | 田中 兼行 | 2013.10.19 | 昭和24年 | 専運 | 常盤 通雄 | 2013.8.12 | 昭和31年 | 一機械 | 渡仲 稔 | 2010 |
| 昭和20年 | 旧機械 | 齋藤 孟 | 2014.1.2 | 昭和24年 | 旧機械 | 古市 了 | 2010.5.23 | 昭和24年 | 二機械 | 伊藤 神八 | 2013.1 | 昭和32年 | 工研機 | 山下 藤美 | 2012.1.10 |
| 昭和20年 | 専機 | 中根 博 | 2011.6.15 | 昭和25年 | 専機 | 福田 重一 | 2013.7.19 | 昭和25年 | 専機 | 藤井 福治 | 2010.3.19 | 昭和33年 | 一機械 | 吉沢 平治 | 2013.7.19 |
| 昭和20年 | 専機 | 横田 啓三 | 2013.3.14 | 昭和25年 | 専機 | 藤井 福治 | 2010.3.19 | 昭和25年 | 旧機械 | 松井 恒二 | 2012.11.15 | 昭和35年 | 一機械 | 板尾 昭栄 | 2012.12.28 |
| 昭和21年 | 旧機械 | 尾形 文安 | 2013.3 | 昭和25年 | 専機 | 小林 純郎 | 2013.1.3 | 昭和27年 | 一機械 | 小林 純郎 | 2012.6.6 | 昭和35年 | 二機械 | 小田嶋 正敏 | 2013.9.20 |
| 昭和22年 | 専運 | 浦野 文彦 | 2012.11 | 昭和28年 | 一機械 | 横山 茂夫 | 2012.6.6 | 昭和35年 | 二機械 | 掛本 剛毅 | 2013.12.22 | 昭和35年 | 二機械 | 木村 哲 | 2012 |
| 昭和22年 | 専運 | 塩崎 芳博 | 2013.1 | | | | | | | | | | | | |
| 昭和22年 | 旧機械 | 星野 秀三郎 | 2011.12 | | | | | | | | | | | | |

事務局からのお知らせ

機友会総会のお知らせ

本年度の機友会総会を下記のように開催します。
多数ご来場くださるようご案内申し上げます。

記

日時：平成26年5月24日（土）午後1時30～7時
会場：西早稲田キャンパス 55号館S棟2階第3会議室
第一部 幹事会・総会
第二部 特別講演 リーディング大学院（仮題）
講 師 菅野 重樹教授
懇親会 56号館地下 生協カフェテリア（参加費2,000円）

第32回 機友会ゴルフ大会開催のお知らせ

日 時：平成26年5月16日（金）

集合8:00 スタート8:30

会 場：川崎国際生田緑地ゴルフ場

費 用：20,000円（プレー費16,000円 参加費4,000円）

申込先：機友会事務局

TEL/FAX：03-3205-9727

E-mail：waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp

準会員として奥様やご家族の参加も可能です。また、正会員でも親睦会員として、競技とは関係なく体力とご相談の上マイペースでの参加も可能です。

（親睦会員の参加費は2,000円です。）

昭和32年卒 機友会懇親会

昭和32年卒業の懇親会は竹内ラウンジにて行うようになります、7年になります。いつもたくさんの方々のご出席有難うございます。

今年も下記のとおり行います。奮ってご参加ください。

日 時：毎年4月および10月の第3火曜日 13:00～

・平成26年4月15日（火）

・平成26年10月14日（火）

場 所：理工キャンパス55号館 竹内ラウンジ

会 費：3,000円程度。

酒類は大学構内では入手不可、持ち込みは可
幹事有志：江口、石岡、石浜、大石、西野入、他

住所・E-mail等の変更のあった時にはご連絡ください

機友会事務局では、会員約25,000名の方々のデーターを管理しておりますが、約4割の方々の情報が把握されていません。また、事務局から発送する郵便物が受取人不明のため、返送されることがたいへん多くなっています。個人情報保護法の問題もあり、確認が極めて困難になっています。

たいへんお手数ですが、住所、勤務先、E-mail等の変更が生じた時は事務局までメールまたは、お電話で知らせください。よろしくお願いいたします。

機友会ホームページをご覧ください

事務局からのお知らせとして、総会・見学会・イブニングサロン等のご案内、また発行済のニュースレターを掲載しています。是非ご覧ください。

<http://www.kiyukai.mech.waseda.ac.jp>



編集後記

今回は、台湾との国際交流、学生さんからの寄稿、広告掲載等、機友会の活性化をめざし、内容の充実に努力しました。

今回のニュースレターが新入生をはじめ読者の方々への情報として役立つことを期待しております。

広告については、今後も募集を継続しますので積極的な参加をよろしくお願いいたします。

(編集担当)

会費納入についてのお願い

会費納入について

機友会の活動は皆様からの会費を財源に運営されています。会費納入について、是非皆様のご理解、ご協力をいただきたくよろしくお願ひいたします。

会費は1年間分 3,000円 4年間分 12,000円

会費納入については郵便局または下記銀行からお振込みください。

※銀行からの場合

三菱東京UFJ銀行 新宿通支店 普通口座 №2460079

お振込みの際は同姓同名の方がいますので卒年・氏名・フリガナを必ずご記入ください。

※郵便局からの場合

ニュースレターに同封されている郵便局の振込用紙は全員の方に同封していますが、昭和34年以前卒業の方、当年度まで会費の納入の方、及び銀行口座振替の方にはサポート費と印字した振込用紙を同封しています。どうかご支援を賜りたくよろしくお願ひいたします。

※当年度から会費を払う場合

今まで会費納入されていない方、過去何年か納入されていない方が遡って納入される方がありますが、会費を遡っていたる規則がありません。

気を使っていただいて有難いのですが、当年からの会費として納入をお願いいたします。

会費納入の自動引落し窓口を開設しています

会費納入に振込みの手間がかからない銀行口座自動引落しの窓口を設けています。

会費は1年間2,750円と少しだけお安くなっています。

ご利用される方は申込み用紙をお送りしますので事務局までご連絡ください。

銀行口座自動引落しは毎年4月18日（休日の場合は翌日）となります。たとえば、5月に申込みをいただいたても、翌年の4月からとなります。

機友会事務局

月、火、木、金の10:00～16:00

伊藤、井古田、荻須、佐々木

〒169-8555

東京都新宿区大久保3-4-1

早稲田大学理工学部内55号館S棟2階

電話 03-3203-4141(大代表) 内線73-5252

TEL/FAX 03-3205-9727(直通)

E-mail waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp

WME ニュースレター 第40号

発行元 早稲田機友会編集委員会

印刷 神谷印刷株式会社

〒171-0033 東京都豊島区高田1-6-24